

# 財務諸表

Kirayaka Bank

当行の銀行法第20条第1項により作成した書面については、会社法第396条第1項による、新日本有限責任監査法人の監査を受けています。  
 ※新日本有限責任監査法人は、平成30年7月1日付でEY新日本有限責任監査法人へ法人名称を変更しております。

## 貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	平成29年3月期 (平成29年3月31日)	平成30年3月期 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	93,077	108,436
現金	23,279	19,286
預け金	69,798	89,150
商品有価証券	11	2
商品地方債	11	2
有価証券	284,950	262,100
国債	93,517	83,025
地方債	8,091	6,997
社債	53,292	53,429
株式	9,252	11,364
その他の証券	120,796	107,282
貸出金	1,027,192	1,020,961
割引手形	7,004	8,640
手形貸付	38,290	39,716
証書貸付	902,182	884,241
当座貸越	79,714	88,362
外国為替	245	275
外国他店預け	230	275
取立外国為替	15	—
リース投資資産	—	1,440
その他資産	2,712	3,406
未決済為替貸	123	150
前払費用	4	1
未収収益	951	935
その他の資産	1,632	2,319
有形固定資産	16,830	16,868
建物	4,695	5,725
土地	9,946	9,713
建設仮勘定	795	—
その他の有形固定資産	1,393	1,429
無形固定資産	2,046	1,666
ソフトウェア	1,880	1,500
その他の無形固定資産	165	165
前払年金費用	2,888	3,302
繰延税金資産	3,881	3,952
支払承諾見返	5,321	5,522
貸倒引当金	△ 5,559	△ 5,092
<b>資産の部合計</b>	<b>1,433,599</b>	<b>1,422,844</b>

	平成29年3月期 (平成29年3月31日)	平成30年3月期 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
預金	1,277,786	1,252,910
当座預金	64,945	80,120
普通預金	473,378	508,202
貯蓄預金	1,842	1,828
通知預金	5,822	17,058
定期預金	708,861	629,935
定期積金	20,388	13,605
その他の預金	2,546	2,158
譲渡性預金	17,978	39,101
コールマネー	50,000	50,000
借入金	4,300	2,700
借入金	4,300	2,700
外国為替	0	0
未払外国為替	0	0
その他負債	9,061	3,471
未決済為替借	252	415
未払法人税等	326	193
未払費用	1,784	1,511
前受収益	500	417
従業員預り金	278	290
給付補填備金	21	5
資産除去債務	99	116
その他の負債	5,798	522
睡眠預金払戻損失引当金	276	202
再評価に係る繰延税金負債	1,657	1,636
支払承諾	5,321	5,522
<b>負債の部合計</b>	<b>1,366,382</b>	<b>1,355,545</b>
<b>純資産の部</b>		
資本金	22,700	22,700
資本剰余金	29,099	29,099
資本準備金	20,641	20,641
その他資本剰余金	8,457	8,457
利益剰余金	12,236	13,246
利益準備金	1,413	1,609
その他利益剰余金	10,823	11,637
繰越利益剰余金	10,823	11,637
株主資本合計	64,035	65,045
その他有価証券評価差額金	△ 430	△ 1,320
土地再評価差額金	3,613	3,572
評価・換算差額等合計	3,182	2,252
<b>純資産の部合計</b>	<b>67,217</b>	<b>67,298</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>1,433,599</b>	<b>1,422,844</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

	平成29年3月期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで)	平成30年3月期 (平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで)
経常収益	22,602	21,652
資金運用収益	17,859	17,355
貸出金利息	13,360	12,878
有価証券利息配当金	4,400	4,374
コールローン利息	—	0
預け金利息	52	60
その他の受入利息	46	42
役務取引等収益	2,898	2,863
受入為替手数料	939	946
その他の役務収益	1,959	1,917
その他業務収益	1,267	151
外国為替売買益	21	24
国債等債券売却益	1,145	3
その他の業務収益	100	124
その他経常収益	576	1,281
貸倒引当金戻入益	65	289
償却債権取立益	49	84
株式等売却益	249	643
その他の経常収益	212	263
経常費用	20,443	19,182
資金調達費用	1,024	536
預金利息	1,020	555
譲渡性預金利息	5	9
コールマネー利息	△ 11	△ 29
借入金利息	8	—
その他の支払利息	1	1
役務取引等費用	1,360	1,526
支払為替手数料	341	339
その他の役務費用	1,019	1,186
その他業務費用	1,512	737
商品有価証券売買損	0	0
国債等債券売却損	676	—
国債等債券償還損	736	623
国債等債券償却	99	—
その他の業務費用	—	114
営業経費	15,864	15,817
その他経常費用	681	564
貸出金償却	253	120
株式等売却損	9	43
株式等償却	—	0
その他の経常費用	418	400
経常利益	2,159	2,469
特別利益	3	27
固定資産処分益	3	27
特別損失	65	202
固定資産処分損	27	32
減損損失	38	169
税引前当期純利益	2,096	2,295
法人税、住民税及び事業税	117	83
法人税等調整額	△ 221	258
法人税等合計	△ 104	342
当期純利益	2,200	1,952

## 株主資本等変動計算書

平成29年3月期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	22,700	20,641	8,457	29,099	1,212	9,818	11,031	62,830
当期変動額								
利益準備金の積立					200	△ 200	—	—
剰余金の配当						△ 1,003	△ 1,003	△ 1,003
当期純利益						2,200	2,200	2,200
土地再評価差額金の取崩						7	7	7
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	200	1,004	1,204	1,204
当期末残高	22,700	20,641	8,457	29,099	1,413	10,823	12,236	64,035

  

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,286	3,620	5,906	68,736
当期変動額				
利益準備金の積立				—
剰余金の配当				△ 1,003
当期純利益				2,200
土地再評価差額金の取崩				7
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 2,716	△ 7	△ 2,723	△ 2,723
当期変動額合計	△ 2,716	△ 7	△ 2,723	△ 1,518
当期末残高	△ 430	3,613	3,182	67,217

平成30年3月期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	22,700	20,641	8,457	29,099	1,413	10,823	12,236	64,035
当期変動額								
利益準備金の積立					196	△ 196	—	—
剰余金の配当						△ 983	△ 983	△ 983
当期純利益						1,952	1,952	1,952
土地再評価差額金の取崩						40	40	40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	196	814	1,010	1,010
当期末残高	22,700	20,641	8,457	29,099	1,609	11,637	13,246	65,045

  

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△ 430	3,613	3,182	67,217
当期変動額				
利益準備金の積立				—
剰余金の配当				△ 983
当期純利益				1,952
土地再評価差額金の取崩				40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 889	△ 40	△ 930	△ 930
当期変動額合計	△ 889	△ 40	△ 930	80
当期末残高	△ 1,320	3,572	2,252	67,298

# 財務諸表

Kirayaka Bank

## 注記事項 (平成30年3月期)

### 重要な会計方針

- 商品有価証券の評価基準及び評価方法  
商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。
- 有価証券の評価基準及び評価方法  
(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社・子法人等株式及び関連法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。  
なお、商品有価証券の評価差額については、全部純資産法により処理しております。
- デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 固定資産の減価償却の方法  
(1) 有形固定資産（リース資産を除く）  
有形固定資産は、定額法により償却しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建 物：15年～50年  
その他：3年～6年  
(2) 無形固定資産（リース資産を除く）  
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
- リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」（及び「無形固定資産」）中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建資産及び負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- 引当金の計上基準  
(1) 貸倒引当金  
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、特別清算等法に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。  
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。  
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は3,298百万円であります。
- 退職給付引当金  
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。  
過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により費用処理  
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理
- 睡眠預金払戻損失引当金  
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認められる額を計上しております。
- 収益及び費用の計上基準  
ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上基準については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
- ヘッジ会計の方法  
(1) 金利リスク・ヘッジ  
金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについては、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にブルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
- 為替変動リスク・ヘッジ  
外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に相当するヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
- 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税（以下、「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。  
ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

### 貸借対照表関係

- 関係会社の株式（及び出資金）総額 4,015百万円
- 貸出金のうち、破綻先債権額は507百万円、延滞債権額は13,154百万円であります。

- なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒債権を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
- また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額はありません。
  - なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
  - 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,794百万円であります。
  - なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
  - 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は16,456百万円であります。
  - なお、上記2. から5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
  - 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、8,640百万円であります。
  - 担保に供している資産は次のとおりであります。

現金預け金	7百万円
有価証券	76,256百万円
担保資産に対応する債務	
預金	216百万円
コールマネー	50,000百万円
借入金	2,700百万円
上記のほか、為替決済、共同システム等の取引の担保として、有価証券14,210百万円を差し入れております。また、その他の資産には、保証金514百万円が含まれております。	

- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客となる融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、131,181百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が131,181百万円あります。
- なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日	平成11年3月31日
同法律第3条第3項に定める再評価の方法	
土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める地価公示法の規定により公示された価格、第2条第3号に定める土地課税台帳及び第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法に基づいて、奥行価格補正、側方路線影響加算等合理的な調整を行って算出	
同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当事業年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額	4,957百万円
10. 有形固定資産の減価償却累計額	18,693百万円
11. 有形固定資産の圧縮記帳額	1,463百万円
12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は8,578百万円であります。	
13. 取締役及び監査役との間の取引による取締役及び監査役に対する金銭債権総額	39百万円
14. 関係会社に対する金銭債権総額	2,108百万円
15. 関係会社に対する金銭債務総額	1,737百万円
16. 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。 剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項（資本金の額及び準備金の額）の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上しております。 当該事業年度における当該剰余金の配当に係る利益準備金の計上額は、196百万円であります。	

### 損益計算書関係

- 関係会社との取引による収益  
資金運用取引に係る収益総額 569百万円  
役員取引等に係る収益総額 35百万円  
その他業務・その他経常取引に係る収益総額 95百万円  
その他の取引に係る収益総額 ー百万円
- 関係会社との取引による費用  
資金調達取引に係る費用総額 0百万円  
役員取引等に係る費用総額 134百万円  
その他業務・その他経常取引に係る費用総額 1,253百万円  
その他の取引に係る費用総額 ー百万円

- 減損損失  
当事業年度において、当行が保有する以下の資産について、営業キャッシュ・フローの低下、使用範囲または方法の変更、地価の下落等に伴い投資額の回収が見込めなくなったことから、減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	金額
営業用店舗	土地	新潟県	65
営業用店舗	土地	秋田県	47
営業用店舗	土地	山形県	45
遊休	土地	山形県	8
遊休	建物	山形県	2
遊休	その他	山形県	0
合計			169

きらやか銀行

資産のグルーピングは、営業用店舗については、それぞれを収益管理上の区分ごとにグルーピングし、最小単位としております。また、遊休資産及び使用中止予定資産並びに処分予定資産は、各資産を最小単位としております。本部等については独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。

なお、当事業年度の減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い方としております。正味売却価額は、主として不動産鑑定評価基準に基づき、使用価値は、将来キャッシュ・フローを0.55%で割り引いて、それぞれ算定しております。

### 株主資本等変動計算書関係

自己株式の種類及び株式数に関する事項  
該当事項はありません。

### 金銭の信託関係

該当事項はありません。

### 税効果会計関係

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ次のとおりであります。

繰延税金資産	
貸倒引当金	1,695百万円
その他有価証券評価差額金	612百万円
税務上の繰越欠損金	2,590百万円
退職給付引当金	497百万円
減価償却	158百万円
その他	877百万円
繰延税金資産小計	6,431百万円
評価性引当額	△ 1,578百万円
繰延税金資産合計	4,853百万円
繰延税金負債	
資産除去費用の資産計上額	13百万円
前払年金費用	887百万円
繰延税金負債合計	900百万円
繰延税金資産の純額	3,952百万円

### 1株当たり情報

1株当たりの純資産額	286円56銭
1株当たりの当期純利益金額	13円03銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	6円87銭

### 重要な後発事象

該当事項はありません。